



平成30年7月2日

■防災への取り組み ～大雨に備えて～ ■テック・フォースを始めて10年 ～災害支援～ のパネル展を開催します

梅雨前線の停滞や台風による大雨により、川の氾濫や土石流、地すべりなど、甚大な被害を引き起こす自然災害が度々発生しています。このような状況の中、中国地方整備局では、様々な防災への取り組みを行っています。今回、三次河川国道事務所、土師ダム管理所が管理する、道路、河川、ダムにおける防災への取り組みを紹介するパネル展を開催します。

あわせて、活動を始めて10年となるテック・フォース(緊急災害対策派遣隊)について、大規模な豪雨災害への被災状況調査などの災害支援を紹介するパネル展を開催します。

どなたでも無料でご覧いただけますので、是非お立ち寄りください。

1. 開催場所:道の駅 ゆめランド布野 情報コーナー(別紙1参照)
ひろしま みよし くのちようしもふの
広島県三次市布野町下布野661-1
2. 開催期間:平成30年7月3日(火) 10:00 ～7月20日(金)15:00
3. 展示内容:(別紙2参照)
 - 防災への取り組み
 - テック・フォース(緊急災害対策派遣隊)

※テック・フォース(緊急災害対策派遣隊)とは

大規模な自然災害発生時に被災状況の把握や被災地方自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的な支援を迅速に実施するものです。

(平成20年度に創設)

【問い合わせ先】

○ 国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所

副所長(河川担当) いなわか たかはる
稲若 孝治

副所長(道路担当) かまた ゆうすけ
鎌田 裕介

【担当】調査設計課長 いとう のりまさ
伊藤 法政

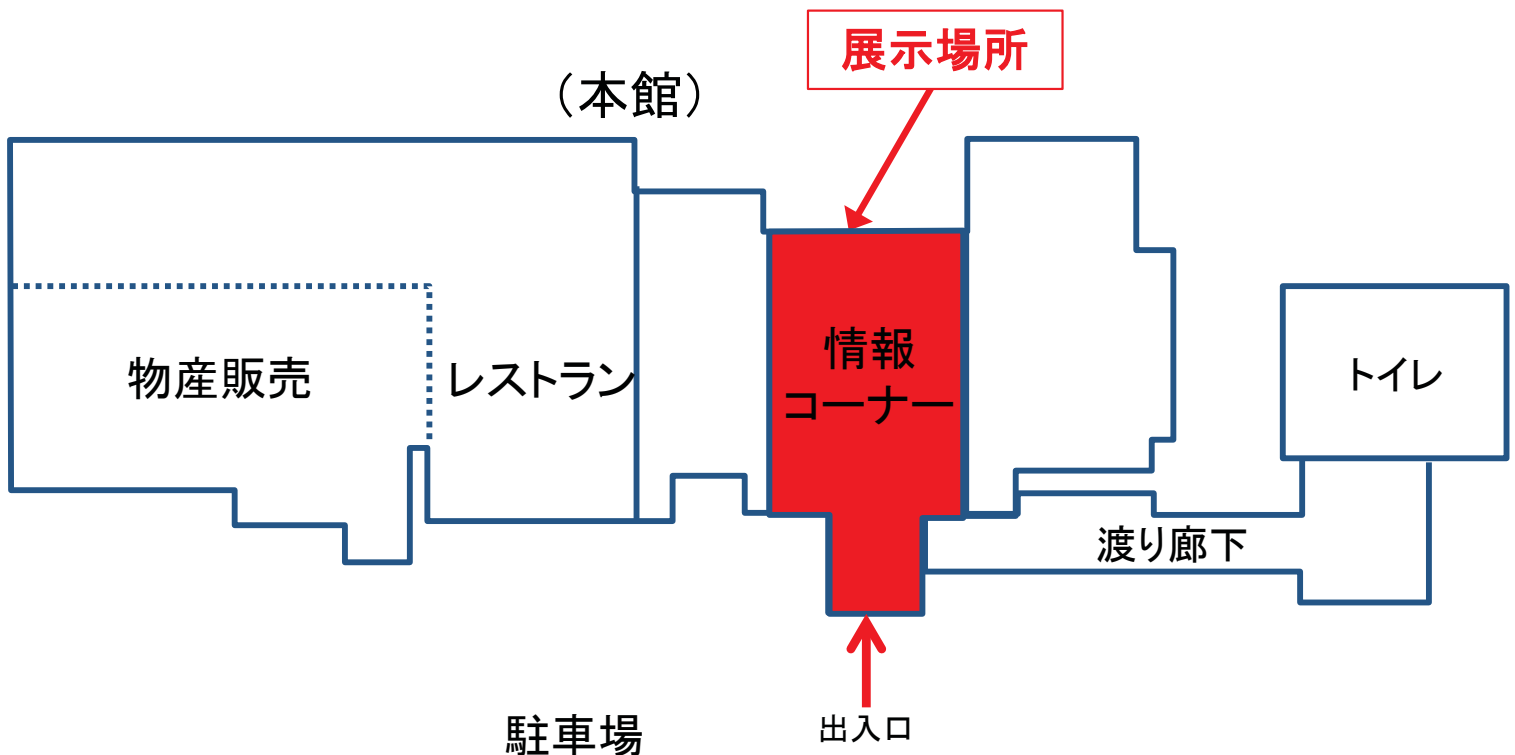
〒728-0011 広島県三次市十日市西六丁目2番1号 TEL:(0824)63-4121 FAX:(0824)64-2240

<開催場所>



国土地理院地図を元に三次河川国道事務所が作成

【開催会場案内図：情報コーナーに展示します。】



<展示内容(抜粋)>

■総雨量1,000mmを超える大雨の発生

全国各地で総雨量1,000mmを超える大雨が頻発し、大規模な水害・土砂災害が発生

平成29年 7月26日(土) 7月26日(土)午後1時～2時、千葉県山武郡成田町(成田)で総雨量1,000mmを超える大雨が頻発し、大規模な水害・土砂災害が発生

平成29年 7月27日(日) 7月27日(日)午後1時～2時、千葉県山武郡成田町(成田)で総雨量1,000mmを超える大雨が頻発し、大規模な水害・土砂災害が発生

平成29年 7月28日(月) 7月28日(月)午後1時～2時、千葉県山武郡成田町(成田)で総雨量1,000mmを超える大雨が頻発し、大規模な水害・土砂災害が発生

平成29年 7月29日(火) 7月29日(火)午後1時～2時、千葉県山武郡成田町(成田)で総雨量1,000mmを超える大雨が頻発し、大規模な水害・土砂災害が発生

水防災意識社会の再構築にむけて

水害に対する意識を「施設的能力には限界があり、施設できない大洪水は必ず発生するもの」へと変革し、氾濫することを前提として、社会全体で常に洪水に備える「水防社会」の再構築を図る

概要

- 平成27年度以降、東北豪雨を踏まえ、平成27年12月11日に「水防災意識社会再構築」を決定し、全ての河川管理用(その別川)を対象(100万m³、700万m³)に必要最低限を目標に水防意識社会を再構築する取組を行う。
- 平成28年度以降は、大規模な水害発生を踏まえ、1次河川管理用(100万m³)の取組を全ての河川で実施する。【水防意識社会再構築】の取組を更に推進し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。
- 令和元年度は、河川管理用、都市計画用、市町村等からなる協議会等新たな取組の体制を構築し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

【ソフト対策】
 住民からリスクを認知し主体的に避難できるような、より実効性のある(住民目線の)ハード対策とし、平成32年度を目標に各種高度を実施。
【ハード対策】
 「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危険管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目標に実施。

■住民目線のソフト対策

水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水、住民が自らリスクを認知し主体的に避難できるような住民目線のソフト対策を推進

リスク情報の提供
 洪水発生時のリアルタイム情報提供
 洪水発生時のリアルタイム情報提供
 洪水発生時のリアルタイム情報提供

避難行動の計画・訓練
 避難行動の計画・訓練
 避難行動の計画・訓練
 避難行動の計画・訓練

避難行動の計画・訓練
 避難行動の計画・訓練
 避難行動の計画・訓練
 避難行動の計画・訓練

■浸水想定区域図(想定最大規模降雨)

日本における近年の降雨の状況
 日本における近年の降雨の状況
 日本における近年の降雨の状況

馬洗川浸水想定区域図
 計画規模降雨
 三次小学校 想定最大 計画規模 7.69 3.93
 三次中学校 想定最大 計画規模 4.39 0.63
 三次市役所 想定最大 計画規模 7.10 2.52
 十日市小学校 想定最大 計画規模 7.61 3.98

■平成29年7月九州北部豪雨における線状降水帯の発生

九州北部地方では、対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込み、前線の南側で線状降水帯が形成。梅雨前線に向かって大気下層に大量の暖かく湿った空気が流入するとともに、上空に寒気が流入したため、大気の状態が非常に不安定となり、積乱雲が発達。積乱雲が同じ場所で次々発生し、東へ移動することで線状降水帯を形成し、同じ場所に強い雨を連続して降らせた

■洪水氾濫を未然に防ぐ対策

平成27年度以降、東北豪雨を踏まえ設定した、堤防整備、河川管理用等の取組、漂遊・バイパス対策、浸透・洗浄対策に併し、優先的に対策が1,200km²について、平成32年度を目標に、今後約5年間で対策を実施。

■危険管理型ハード対策

○氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バypass等の解決が困難な区間など約1,800km²について、決壊までの時間を少しでも引き延ばす工夫する対策を平成32年度を目標に、今後約5年間で実施。

■梅雨期に備えて道路の法面、河川の堤防・護岸を点検

■土師ダムの規模・目的

<道路>
 梅雨時期を迎え、新たな落石の危険性や道路法面の劣化を事前に確認することを目的としています。
 異常が確認された場合には、早急に落石防止工を実施します。

<河川>
 梅雨時期を迎え、洪水による堤防の決壊等に防ぐために、堤防や護岸等の河川管理施設を事前に点検し、異常が確認された場合には、早急に補修工を実施します。

点検状況

土師ダムの目的

- 洪水調節
 ダム地点における計画洪水流量1900m³/sのうち1100m³/sを計画し、800m³/sをダム下流に放流することにより、ダム下流の洪水被害を防止・軽減する。
- かんがい用水の供給
 高水などの河川流量が減少する時期に、ダムから貯留水を放流し、下流の用水を供給する。

■平成29年7月洪水における土師ダムの効果

土師ダム上流の流域平均雨量:7月3日18時～5日12時、36.8mm
 土師ダムへの流入量が最大で毎秒約820m³。(平成で2番目に多かった)
 その結果、安芸高田市吉田町付近の江の川水位を約1.4m低減等の効果となる計画高水位以下に抑えることができた。
 また、吉田水位観測所での氾濫危険水位の超過時間が7時間の短縮に貢献した。

土師ダム周辺のイベント(平成29年度の事例)

- 4/16 土師ダム桜まつり
 一年間のうち最も賑わうのが桜のシーズン。八千代湖畔には約6,000本の桜が咲く境内有数の名所。
- 7/22 土師ダム見学会
 「県と国に思い入れ、土師ダムを愛する見学会を実施。楽しい宴食会内、遊覧船の乗船、災害対策視察を兼ねたイベント。多くの親子で賑わった。
- 8/26 安芸高田花火大会
 安芸高田花火大会は4月28日土師ダム(八千代湖)で開催された。第14回企画花火大会は、1万6000人の観客で賑わった。
- 9/3 ツールドひろしま安芸高田2017
 土師ダムを起点とした110kmの自転車競技
- 11/23 第40回土師ダム湖マラソン
 10km部門のレース状況
 選手ベア、3km、10km、ハーフの4種目
- 12/3 第23回、3/11 第24回 土師ダム桜守りプロジェクト
 6,000本の桜の木の手入れを行うボランティア行事

■地域を支える力

地域建設業は、大規模災害発生時の応急対応など迅速かつ的確な対応により、災害の拡大防止や、次災害の防止に貢献しています。

国土交通省中国地方整備局

■広島豪雨災害対応

TEC-FORCE
 Technical Emergency Control FORCE

広島豪雨災害対応
 国土交通省中国地方整備局

■暗闇を照らす一筋の光

一日も早い復旧を目指し、徹夜で復旧工事を支援

国土交通省中国地方整備局

■国土交通省 TEC-FORCE 災害支援を始めて10年

大規模災害の技術支援
 この先も全力で。

国土交通省
 TEC-FORCE
 災害支援を始めて10年

大規模災害の技術支援
 この先も全力で。

国土交通省
 TEC-FORCE
 災害支援を始めて10年